

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 ご利用者：80代・女性・要介護3

病 名：大腸イレウス

利用サービス：令和5年10月～長期入所

経 過：令和2年4月頃、下行結腸癌のためステント留置。令和4年10月より当施設ご入所。令和5年9月に大腸イレウスにより救急搬送。ご家族は食べることの大好きなご本人を思い、ストマを造設。ストマ造設をポジティブに考えられるよう、プライマリナーズが外出支援を計画。数年ぶりにご家族とスーパーへ行き、ご自分の食べたいものを選んでいただき、「好きなものを食べる幸せ」を感じて頂けた症例。

内 容

再入所前のご利用時からBPSDが強く、帰宅願望や介護拒否もありました。しかし、スローガンである「愛情を持って親身な対応」を継続したことで当施設で穏やかに生活を送ることが出来るようになっていました。その矢先、令和5年9月下旬に夜間嘔吐。

ステント閉塞による大腸イレウスでK圏域の病院へ救急搬送されました。ご家族は今後の方針を話し合う際、認知症もあり悩んだようですが、「食べるのが大好きだから、好きなものを食べさせてあげたい」とストマ造設を決断しました。ご家族は当施設への再入所のご希望を頂いており、私たちにとっても大切な方なので受け入れたいと思いました。入院先の病院からは「認知症もあり、パウチをいたずらしてしまうし、抑制も出来ないでしょうし本当に施設で大丈夫ですか?」と繰り返し聞かれました。

私たちは、断る選択ではなく、どうしたら受け入れられるかと入所判定会議で話し合いました。全部署が「受け入れたい」という強い思いで、一丸となっているのがわかりました。しおさいには西伊豆健育会病院の医師や看護師もいて下さる、アワーチームの安心感もありチャレンジすることが出来ました。令和5年10月の再入所時、帰ってきたご本人は「嬉しい嬉しい、大好き大好き、会いたかった会いたかった」と私達職員を認識して最高の笑顔を見せて下さいました。

ストマに関しては再入所当日より、明け方にパウチが剥がれ便汚染をしていました。何度かそのようなことがありましたが、もともと心配性のご本人が慣れない物や怖いものを弄らないのではないか、ご本人が剥がしているのではなく、何か気になるから触っているだけなのではないかと思い、丁寧な観察を続けパウチ選定を行うと共に、ストマがご本人にとって大切なものであることをお伝え続けました。

今ではストマによるトラブルはなく過ごせるようになりました。そんなご本人に「せっかくストマを造設したなら、何か好きなものを食べさせてさし上げたい」とプライマリナーズが中心となり、退院後の初受診

の際に外出大作戦を練りました。この地域では大きな思い出のスーパーへ行くと、キラキラとした目で「ご飯?ご飯?」と目に映るもの全て召し上がるのではないかとというくらい楽しそうにお買い物をされました。

かつ丼とお団子を選び、同行した看護師がハサミで食べやすいようにカットし、いざ実食されると、何度も「美味しい美味しい」と召し上がりました。

その幸せそうな様子にご家族も私達職員も嬉し涙でいっぱいでした。

ご本人・ご家族のお気持ちに寄り添い、私達にとって大切なですとお伝え続けたことにより、信頼関係が生まれ、ご利用者の願いである「食べる幸せ」をもたらし、その笑顔に周囲まで幸せをもたらせた症例となりました。